



市民との交流を重視したファンサービス 人気選手が小学校で野球教室を開催

本拠地移転の決定と同時に、ファイターズは「地域との共生」という経営方針を掲げました。その理念を実現していくために、ヒルマン監督をはじめ、選手や球団スタッフは、試合の合間を縫って、地域との交流に力を入れています。「北海道はジャイアンツのファンが圧倒的に多いので、まずは、可能な限り市民の方とふれあう機会を設けて、ファイターズというチームを身近に感じてもらいたい」と話すのは、日本ハム球団(株)札幌移転準備室の畑野熊夫(くまお)広報部長です。

その活動の一環として、札幌での二日間の試合を終えた五月七日、選手たちは三人一組で、市内五つの小学校を訪れ、野球教室を開催しました。豊平区の平岸小学校には、小笠原道大(みちひろ)内野手、佐々木貴賀(たかひら)投手、森本稀哲(ひろと)外野手の三人が登場。体育館に集まった約六百人の子供たちは、選手たちの迫力あるスイングや華麗なグラブさばきに感嘆の声を上げます。

少年野球チーム「平岸ファイターズ」でキャプテンを務める六年生の瀬戸兼輔(かねすけ)君は、「あこがれの小笠原選手に打撃のアドバイスを受けて、「将来はファイターズの選手になりたい」と目を輝かせます。

「豊平リトルリーグ」に所属する六年生の井上莉彩(りさい)さんは、「とても緊張したけど、森本選手とのキャッチボールに、「とても緊張したけど、うまく投げることができました。これからはファイターズを応援します」とニコニコ顔でした。

ファイターズの本拠地移転には、子供たちの夢をはぐくむだけでなく、地域経済の振興や新たなスポーツ文化の創出という面でも大きな効果が期待されています。

移転決定後は、市民との交流にも力を入れ、確実にファンの数を増やしているファイターズ。皆さんも、八月の試合に足を運び、スピードとフアイトあふれるプレーに声援を送りませんか。



平岸小学校で野球を指導する小笠原選手

来春、本拠地を札幌に ファイターズがやって来る ～移転へのカウントダウン～

☆札幌市の長期的な目標

スポーツを通じたまちづくりと札幌ドームの有効活用を図るため、プロ野球球団のフランチャイズ移転を目指す

平成14年

- 4月 日本ハムファイターズが、平成16年から本拠地を札幌ドームへ移転することを正式に表明。
- 7月 プロ野球オーナー会議において、ファイターズの東京都から北海道へのフランチャイズ移転が承認される。

平成15年

- 4月8日 地下鉄大通駅コンコースにカウントダウンボードを設置
～16年3月1日を移転日に設定する。
- 8・9日 **公式戦～対オリックス(札幌ドーム)**
～昼間、監督や選手たちが、学校訪問などファン開拓に向けて活動する。
- 16日 札幌ドーム敷地内に設置するコンサドール札幌との共同事務所の起工式
～今後、本拠地を共にするプロチームとして、集客やファンサービスの面で協力していく。
- 22日 東区のサッポロビール園隣接地に建設する屋内練習場と合宿所の起工式
～屋外からも見学できる練習場は、新たな観光施設として期待されるだけでなく、市民への貸し出しも予定。11月中の完成を目指す。
- 5月5・6日 **公式戦～対西武(札幌ドーム)**
～札幌ドーム初勝利ならず。
- 8月18・19・20日 **公式戦～対大阪近鉄(札幌ドーム)**
- 22・23・24日 **公式戦～対西武(札幌ドーム)**

平成16年

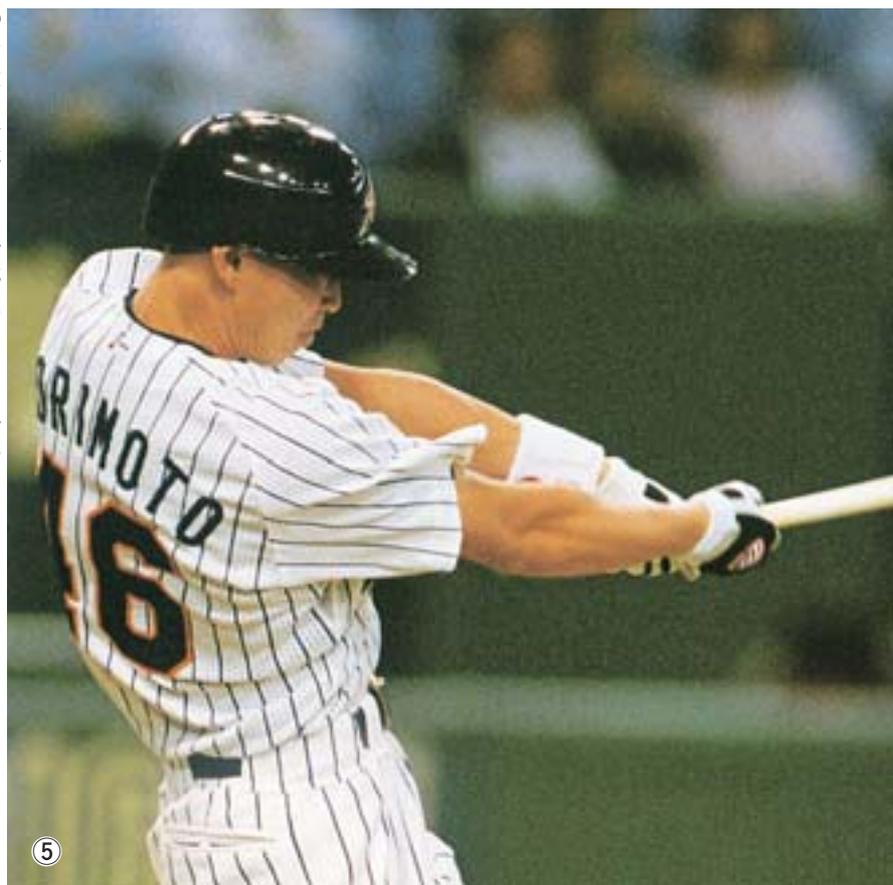
- 3月 **正式移転**
移転までに、球団名、ロゴマーク、ユニフォームなどを変更する予定。

プロ野球におけるフランチャイズ

各球団が野球上のすべての権利を保護される特定の地域(保護地域)を都道府県単位で与えられることをいう。平成16年からファイターズは道内での試合開催に独占権が認められるが、球団は道内での他球団の試合開催を従来通り認める意向。

【詳細】 日本ハム球団(株)札幌移転準備室
☎857-3939

- ① 五月六日、西武ライオンズ戦でのファイターズベンチ、
- ② 金村曉(あきむら)投手、
- ③ 正田樹(たけし)投手、
- ④ 小笠原道大(みちひろ)内野手、
- ⑤ 森本稀哲(ひろと)外野手



⑤